

外為マンスリービューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2013/05/01

米中の景況感に注目

通貨ペア	基調		ページ数
<u>豪ドル/円</u>	➡	RBAの金融スタンスに変化はあるか	2-3
		予想レンジ: 97.70 ~ 103.80 円	
<u>NZドル/円</u>	➡	NZ経済の好調さが示されるか	4-5
		予想レンジ: 80.00 ~ 86.40 円	
<u>ランド/円</u>	➡	潜在的売り要因が多い	6-7
		予想レンジ: 10.00 ~ 11.50 円	

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



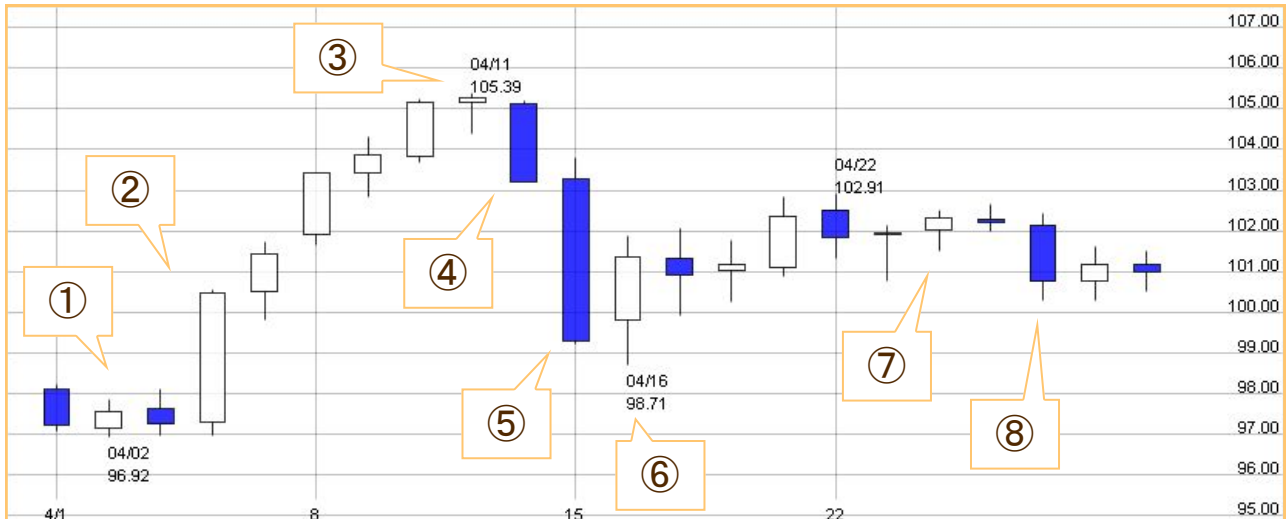
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

AUD / JPY

豪ドル/円 4月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	98.09円	105.39円	96.92円	101.00円



- ① 2日、豪準備銀行(RBA)は政策金利の3.00%据え置きを発表。声明文は前月とあまり変わらない内容であったため、豪ドル/円相場の反応は限定的であった。
- ② 4日、日銀が声明にて「毎月の長期国債購入、グロスで7兆円」「ETFは年間1兆円増額、REITは年300億円増額」(いずれも全会一致で決定)「長期国債購入、対象は40年債を含む」など、市場の予想を大きく上回る規模の緩和策を発表。これを好感して円売りが強まった。
- ③ 11日、豪3月失業率が5.6%、新規雇用者数は3.61万人減と予想(5.4%、0.75万人減)より弱い内容となると、豪ドル/円は101.40円まで下落。ただその後は本邦や欧州での株高や、ドル/円相場での100円の大台乗せを狙った仕掛け的な買いを背景に、2007年11月以来となる105.39円の高値を記録した。
- ④ 12日、ギラード豪首相の「政府の緊縮財政スタンスはRBAの利下げ余地を容認」との発言を付け、豪ドル/円は取引開始直後から軟調に推移。更にNY市場引け間際、米財務省が公表した為替報告書にて「日本の通貨政策を注意深く監視する」「日本は通貨安競争を避けるべき」などの見解が伝わると、ドル/円の急落に連れて一段安となった。
- ⑤ 15日、中国第1四半期国内総生産(GDP)が前年比+7.7%、4月鉱工業生産は前年比+8.9%と、いずれも予想(+8.0%、+10.1%)を下回った。市場では中国を最大の貿易相手国とする豪州にはマイナスと受け止められ、豪ドル/円は下落。その後、米株や商品相場的大幅下落、ボストンマラソンでの爆発もあり、引けにかけて下げ幅を拡大した。
- ⑥ 16日、前日のリスク回避の流れを引き継ぎ、豪ドル/円は取引開始直後に98.71円まで下落。ただ売り一巡後は大幅下落の反動から買い戻しが優勢となった。なおRBA議事録にて「インフレ見通しは必要であれば一段の緩和の余地がある事を示す」等が伝えられて豪ドルが売られるも、一時的であった。
- ⑦ 24日、豪第1四半期消費者物価指数(CPI)は前期比+0.4%、前年比+2.5%といずれも予想(+0.7%、+2.8%)を下回った事を受け、豪ドル/円は101.50円まで急落。ただその後、本邦や欧州の株高を背景に反発した。
- ⑧ 26日、日銀金融政策決定会合にて全会一致の現状維持が伝えられ、円買いが強まった。その後、米第1四半期GDP・速報値が予想を下回った事によるドル/円下落の影響も重なり、豪ドル/円は終始軟調に推移した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

AUD / JPY

今月のポイント

4月の豪ドル/円相場は96.92円～105.39円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約3.1%の上昇(豪ドル高・円安)となった。前半は日銀による緩和強化を受けた円売りにより上昇。その後、中国や米国の景気減速懸念、ギラード豪首相の利下げ示唆発言を受けて下落するも、売り一巡後は米株の史上最高値圏での推移やドル/円の反発を背景に下げ幅を縮小した。

豪ドル/円は昨年後半以降、本邦の緩和強化や米中の景気回復といった期待を軸に上昇してきた。しかし、先月の日銀の緩和強化実施により材料出尽し感が漂うほか、米中の経済指標が相次いで予想を下回った事で、両国の景気回復期待もやや後退。これらを理由に今までのトレンドが転換する可能性があり、その動きを見極める上で、米4月雇用統計や中国4月鉱工業生産を始めとした米中の経済指標に注目したい。

一方、豪州では7日に金融政策発表が予定されている。第1四半期豪CPIを受けて一部で利下げ観測が浮上してはいるものの、基調インフレ率は前年比+2.4%とRBAの目標レンジ(年2～3%)内である事や、現在は利下げの効果を見定める段階にある事から、現在の緩和的な金融政策を維持するとの見方が優勢となっている。仮に利下げとなれば豪ドル売り要因となりえるが、据え置きの場合は利下げを期待していた向きからの買い戻しによって豪ドル高の展開もありえる。RBAの次の一手を読み取る上で、政策金利発表の際に出される声明文を始め、10日のRBA四半期金融政策報告、21日のRBA議事録にも市場の関心が集まりそうだ。(川畑)

(予想レンジ:97.70～103.80円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

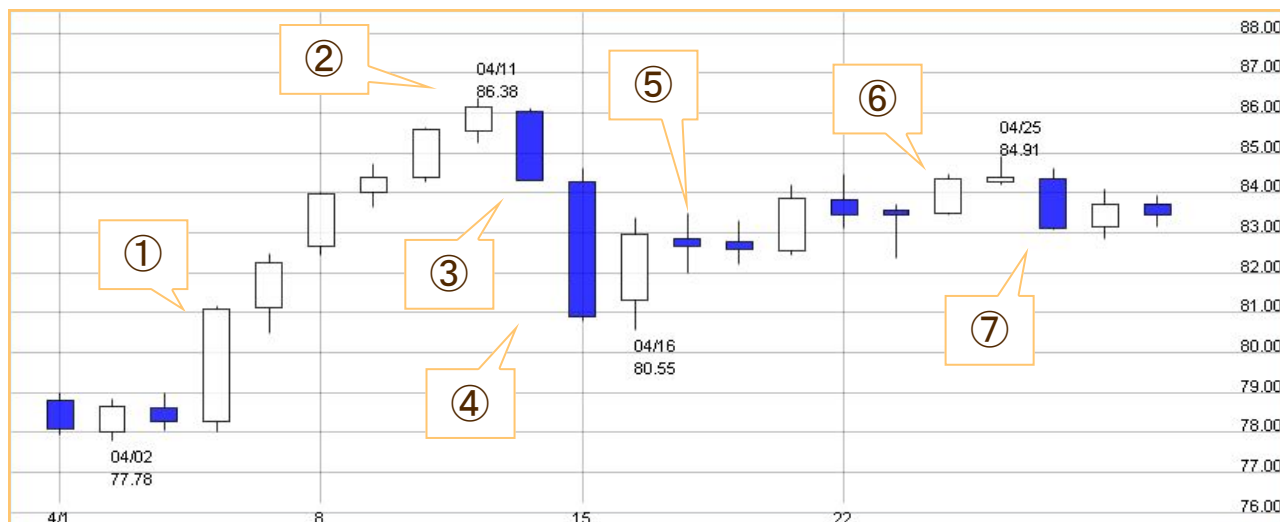
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
5/1(水)	4月中国製造業PMI	5/7(火)	RBAキャシュターゲット
	4月米ADP全国雇用者数	5/8(水)	4月中国貿易収支
	4月米ISM製造業景況指数	5/9(木)	4月豪雇用統計
	米FOMC政策金利発表(4/30～)		4月中国消費者物価指数
5/2(木)	日銀金融政策決定会合議事要旨(4/3・4分)	5/10(金)	RBA四半期金融政策報告
	3月豪住宅建設許可件数	5/13(月)	4月中国小売売上高
	第1四半期豪輸入物価指数		4月中国鉱工業生産
	欧州中銀金融政策発表		4月米小売売上高
5/3(金)	第1四半期豪生産者物価指数	5/17(金)	5月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
	4月米雇用統計	5/21(火)	RBA議事録
	4月米ISM非製造業景況指数	5/22(水)	日銀金融政策決定会合(21日～発表)
5/6(月)	3月豪小売売上高	5/23(木)	5月中国HSBCフラッシュ製造業PMI
5/7(火)	3月豪貿易収支	5/30(木)	4月豪住宅建設許可件数

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

NZD/JPY

NZドル/円 4月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	78.79円	86.38円	77.78円	83.45円



- ① 4日、日銀が声明にて「毎月の長期国債購入、グロスで7兆円」「ETFは年間1兆円増額、REITは年300億円増額」（いずれも全会一致で決定）「長期国債購入、対象は40年債を含む」など、市場の予想を大きく上回る規模の緩和策を発表。これを好感して円売りが強まった。
- ② 11日、本邦や欧州での株高、ドル/円相場での100円の台乗せを狙った仕掛的な買いを背景に、NZドル/円は2008年2月以来となる86.38円の高値を記録した。
- ③ 12日、ドル/円が100円の台目前で失速した事や、欧州株安を背景にNZドル/円は軟調に推移。さらにNY市場引け間際、米財務省の為替報告書にて「日本の通貨政策を注意深く監視する」「日本は通貨安競争を避けるべき」等の見解が伝わると円買い戻しが強まり、NZドル/円は下げ幅を拡大した。
- ④ 15日、中国第1四半期国内総生産(GDP)が前年比+7.7%、4月鉱工業生産が前年比+8.9%と、いずれも予想(+8.0%、+10.1%)を下回った。中国を主要な貿易相手国とするNZにはマイナスと受け止められ、NZドル/円は下落。米株安や商品相場の大幅下落、ボストンマラソンでの爆発もリスク回避の動きに拍車をかけ、引けにかけて下げ幅を拡大した。
- ⑤ 17日、NZ第1四半期消費者物価指数の前年比は+0.9%と市場予想と一致するも、前期比が+0.4%と予想(+0.5%)を下回った事を受け、NZドル/円は一時82.64円まで下落。ただその後は本邦株高やドル/円上昇を背景に反発した。
- ⑥ 24日、NZ準備銀行(RBNZ)は市場の予想通り、政策金利の2.50%据え置きを発表。声明では「個人消費の拡大とカンタベリー地区の震災復興が経済の上向き要因」などNZ経済に明るい見通しを示したほか、NZドル高に懸念を示すも介入を示唆するほどの強いものとはならなかった。これを受けてNZドル買いが強まった。
- ⑦ 26日、NZ3月貿易収支が7.18億NZドルの黒字と予想(4.70億NZドルの黒字)より強い内容となったことを受けてNZドル/円は値を上げるが一時的。その後、日銀金融政策決定会合にて全会一致の現状維持が伝えられ、円買いが強まったほか、米第1四半期GDP・速報値が予想を下回った事によるドル/円下落の影響を受けて、軟調に推移した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

NZD / JPY

今月のポイント

4月のNZドル/円相場は77.78円～86.38円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約5.9%の上昇(NZドル高・円安)となった。前半は日銀による緩和強化を受けた円売りにより上昇。その後中国や米国の景気減速懸念を背景に下落するも、売リ一巡後はRBNZ声明を好感したNZドル買いや、ドル/円の反発を手掛かりに下げ幅を縮小した。

NZドル/円は昨年後半以降、本邦の緩和強化や米中の景気回復といった期待を軸に上昇してきた。しかし、先月の日銀の緩和強化実施により材料出尽し感が漂うほか、米中の経済指標が相次いで予想を下回った事で、両国の景気回復期待もやや後退。これらを理由に今までのトレンドが転換する可能性が出てきた。その動きを見極める上で、米4月雇用統計や中国4月鉱工業生産を始めとした米中の経済指標に注目したい。

一方、NZ国内では金融政策発表こそ予定されていないが、NZ経済の回復状況を確認する上で、第1四半期の失業率や小売売上高、そしてNZ政府の予算案公表に注目が集まりそうだ。その予算案にて(先月イングリッシュ財務相が示した)2014～15年度までに財政黒字化を目指す方針が改めて示されれば、高格付け維持の思惑からNZドルが買われる事も考えられる。早ければ来年前半と目されるRBNZの利上げ期待もあり、仮に下押し場面があったとしても、他の資源国通貨よりも立ち直りは早いと推測される。(川畑)

(予想レンジ: 80.00～86.40円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

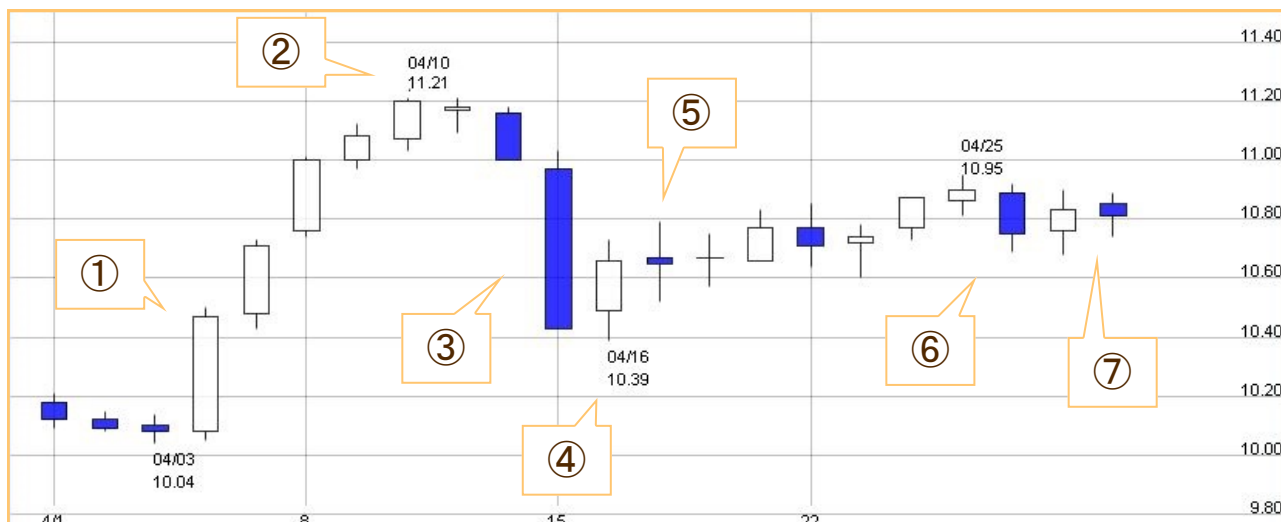
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
5/1(水)	4月中国製造業PMI	5/13(月)	4月中国小売売上高
	4月米ADP全国雇用者数		4月中国鉱工業生産
	4月米ISM製造業景況指数		4月米小売売上高
	米FOMC政策金利発表(4/30～)	5/14(火)	第1四半期NZ小売売上高指数
5/2(木)	日銀金融政策決定会合議事要旨(4/3・4分)	5/16(木)	NZ政府、予算案公表
	欧州中銀金融政策発表	5/17(金)	第1四半期NZ生産者物価
5/3(金)	4月米雇用統計		5月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
	4月米ISM非製造業景況指数	5/22(水)	4月日通関ベース貿易収支
5/8(水)	RBNZ金融安定レポート		日銀金融政策決定会合(21日～発表)
	4月中国貿易収支	5/23(木)	5月中国HSBCフラッシュ製造業PMI
5/9(木)	第1四半期NZ失業率	5/24(金)	4月NZ貿易収支
	4月中国消費者物価指数	5/30(木)	4月NZ住宅建設許可

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

ZAR/JPY

ランド/円 4月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	10.18円	11.21円	10.04円	10.81円



①

4日、日銀が声明にて「毎月の長期国債購入、グロスで7兆円」「ETFは年間1兆円増額、REITは年300億円増額」（いずれも全会一致で決定）「長期国債購入、対象は40年債を含む」など、市場の予想を大きく上回る規模の緩和策を発表。これを好感して円売りが強まった。

②

10日、予定より早く公表された米連邦公開市場委員会（FOMC）議事録では「数人のメンバーは年末までの量的緩和（QE）の停止を想定」などの見解が明らかとなった。これを受けてドル/円が上昇すると、ランド/円は2011年8月以来となる11.21円まで連れ高となった。

③

15日、中国第1四半期国内総生産（GDP）が前年比+7.7%、4月鉱工業生産が前年比+8.9%と、いずれも予想（+8.0%、+10.1%）を下回った。中国の景気減速が懸念され、ランド/円は下落。さらには米株や商品相場の大幅下落、ボストンマラソンでの爆発もリスク回避の動きに拍車をかけ、引けにかけて下げ幅を拡大した。

④

16日、前日のリスク回避の流れを引き継ぎ、ランド/円は取引開始直後に10.39円まで下落。ただ売り一巡後は大幅下落の反動から買い戻しが優勢となった。

⑤

17日、南ア3月消費者物価指数が前年比+5.9%と予想（+6.0%）より弱い内容となる一方、南ア2月小売売上高は前年比+3.8%と予想（+1.8%）より強い内容となったが、いずれも市場の反応は薄かった。

⑥

26日、日銀金融政策決定会合にて全会一致の現状維持が伝えられ、円買いが強まった。その後、米第1四半期GDP・速報値が予想を下回った事によるドル/円下落の影響もあり、ランド/円は終始軟調に推移した。

⑦

30日、南ア3月貿易収支は78億ランドの赤字と事前予想（85億ランドの赤字）より強い内容となったが、ランド/円相場への影響は限定的であった。

ZAR/JPY

今月のポイント

4月のランド/円相場は10.04円～11.21円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約6.1%の上昇(ランド高・円安)となった。前半は日銀による緩和強化を受けた円売りにより上昇。その後、米国や中国の景気減速懸念を背景に反落するも、売り一巡後はドル/円の反発を手掛かりに下げ幅を縮小した。一方で南ア国内の経済指標に対する反応は薄く、普段以上に国外要因に左右される月となった。

ランド/円は昨年後半以降、本邦の緩和強化や米中の景気回復といった期待を軸に上昇してきた。しかし、先月の日銀の緩和強化実施により材料出尽し感が漂うほか、米中の経済指標が相次いで予想を下回った事で、両国の景気回復期待もやや後退。これらを理由に今までのトレンドが逆転する可能性が浮上している。その動きを見極める上で、米4月雇用統計や中国4月鉱工業生産を始め、米中の経済指標に市場の関心が集まりそうだ。

一方南ア国内では、先月は材料視されなかったとはいえ、同国の電力供給不足問題やスト再燃の懸念がくすぶっている。これらが蒸し返される場面では直後の市場ではランド売りの材料となりえるので注意したい。

先月のランド/円の騰落率+6.1%と、豪ドル/円(+3.1%)やNZドル/円(+5.9%)を上回った。しかし、いずれの通貨ペアもリーマンショック前の高値を視野に入れた上伸となる一方、ランド/円はリーマンショック前の高値(2006年4月高値19.74円)には遠く及ばず、2006年高値～2009年安値の1/3戻し(11.69円)すら未達成であるなど、戻りの鈍さが目立つ。現状ではランド買い材料が少なく、仮に主要国での株高を受けて「リスク・オン」の流れとなったとしても、ランド/円の上昇の勢いは他の資源国通貨よりも劣るだろう。(川畑)

(予想レンジ:10.00～11.50円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
5/1(水)	4月中国製造業PMI	5/13(月)	4月中国小売売上高
	4月米ADP全国雇用者数		4月米小売売上高
	4月米ISM製造業景況指数	5/15(水)	3月南ア実質小売売上高
	米FOMC政策金利発表(4/30～)	5/17(金)	5月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
5/2(木)	日銀金融政策決定会合議事要旨(4/3・4分)	5/22(水)	4月日通関ベース貿易収支
	欧州中銀金融政策発表		日銀金融政策決定会合(21日～発表)
5/3(金)	4月米雇用統計		4月南ア消費者物価指数
	4月米ISM非製造業景況指数	5/23(木)	5月中国HSBCフラッシュ製造業PMI
5/6-10	第1四半期南ア失業率		SARB政策金利発表
5/8(水)	4月中国貿易収支	5/28(火)	第1四半期南アGDP
5/9(木)	4月中国消費者物価指数	5/30(木)	4月南ア生産者物価指数
5/13(月)	4月中国鉱工業生産	5/31(金)	4月南ア貿易収支

巻頭の特記事項を必ずお読みください。